

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	Grability LiFE		
○保護者評価実施期間	令和6年1月1日		～ 令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和6年1月1日		～ 令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和6年1月1日		～ 令和6年12月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に応じた専門性のある支援が行われており、個別支援計画が適切に作成されていることで、質の高い支援が提供されている。	子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析し、それに基づいた個別支援計画を作成することで、支援の質を高める工夫がなされている。	ペアレント・トレーニングや家族参加型の研修会を新たに導入し、保護者が子どもの支援方法を学べる機会を増やす。
2	保育所等訪問支援では、訪問先施設的环境や状況に配慮した支援が実施され、現場に合わせた柔軟な対応が評価されている。	保護者様や施設からのフィードバックを取り入れ、支援内容の改善や工夫を継続的に行うことで、支援の満足度向上に努めている。	定期的なニュースレターやオンラインでの情報発信を通じて、支援に役立つ情報や子育てに関する知識を提供する。
3	訪問支援員からの助言や説明が具体的にわかりやすく、実際の場面で取り入れやすい内容となっていることが保護者や施設から好評を得ている。	課題や困りごとを解消または軽減するために、実践的で具体的な支援方法を提供し、成果が実感できる支援を意識している。	保護者様同士が交流できる場や、家族全体で参加できるイベントを開催し、家庭での支援力向上とネットワークづくりを支援する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	連絡可能時間とそうでない時間帯の提示が弱いため、業務時間外の対応が起こる可能性がある。	連絡可能時間を明確にしていなかったことで業務時間外に連絡をいただくときがある。	現在、連携を取らせていただいているご家庭及び訪問先様に連絡可能時間と電話対応できない時間を明確に提示し双方に負担のない連携状況を作る。
2	家族向けの支援プログラムや研修会、情報提供の機会が不足しており、保護者が支援方法を学ぶ機会が限られている。	家族支援プログラムを実施するための人員や時間、専門的な知識が不足しており、具体的な取り組みが進みにくい。	ペアレント・トレーニングや保護者様向け研修会を定期的に開催し、家庭での支援力向上を図る。
3	訪問支援での助言は効果的だが、家庭内での支援が十分に継続できる体制やフォローアップが不足している。	家族支援の必要性は認識されているものの、日々の支援業務が優先され、家族支援の計画や実施が後回しになりがちである。	訪問支援後のフォローアップ体制を整備し、定期的な面談や相談を通じて家庭内支援の継続性をサポートする。